

6 想定される協力内容

6.1 ベラグアス県コミュニティー栄養改善プロジェクト（仮称）

（1）背景

パナマは所得水準が中南米諸国の中でも比較的高いが、国内の社会・経済的格差が大きく特に地方農村社会の貧困問題は深刻である。前モスコソ政権および現政権も貧困戦略を国家開発の最優先課題とし、社会セクター事業の効率化を測るために貧困層へのターゲティング強化、人的資源開発、地方分権化、住民参加、モニタリング強化などの戦略を掲げている。貧困層ターゲティングの優先地域として地方農村部と先住民族居住区を、優先民族としてノベ・ブグレ族と先住民族居住区に住むノベ・ブグレ族以外の先住民族を、人口・経済分野の優先として貧困層の幼児及び青少年を、また栄養不良の幼児及び妊婦を掲げている。先住民族の貧困問題は深刻で協力目的に高い妥当性はあるものの、最低限の生活基盤（道路・水・衛生・通信・電気・ガスなどのインフラ整備）も整備されていない状態では、効率性・自立発展性の観点から、ゼロからの技術協力の協力効果は低いと考えられる。²⁹従って先住民族自治区を除いた上で貧困度が高く、他ドナーの支援が少ないベラグアス県における、JICAの援助重点分野「貧困及び地域間格差の是正」のプログラム展開が検討されている。

（2）我が国の援助方針との整合性

JICAは援助重点分野の一つとして「貧富および地域間格差の是正」、その優先開発課題として「貧困層の経済的能力向上」および「基礎的な公共サービスの充足」を掲げ、今後さらに貧困問題に関する取組み強化に努める方針である。平成14年度実施の「パナマ国別事業評価」（1991～2000年実施案件対象）においても、当該分野の協力継続の妥当性・必要性が確認されている。

（3）案件概要

（ア）上位目標

ベラグアス県貧困地域において、プロジェクト対象以外の地域も含めて、①個人農園の改善が促進され、それにより②家庭の食事の改善が促進される。

（イ）案件の目標

プロジェクト対象地域における子供（未就学児と就学児）の栄養・健康状態が改善される。

裨益者グループの種類と規模を下記に示す。

²⁹ ただしGTZなどが行っているノベ族アグロフォレストリープロジェクトプロジェクト（PAN）は、長期的な視点で農民グループの組織化など人材育成を通して成果を出しており、このプロジェクトが築いた土台にフォロー活動を実施するのであれば相対的に高い効果が期待できる。今後事務所主導で当地でのフォロー活動に関して検討する予定である。

◇ 対象候補となる郡の推定人口（男、女）、年齢別人口は次の通り

	人口			0-4歳			5-14歳 ³⁰		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女
カニヤサス	15,999	8,652	7,347	2,268	1,156	1,112	4,148	2,078	2,070
ラス・パルマス	17,924	9,782	8,142	2,467	1,251	1,216	4,752	2,511	2,241
サン・フランシスコ	9,899	5,542	4,357	1,212	645	567	2,469	1,319	1,150
サンタ・フェ	12,890	6,993	5,897	1,936	987	949	3,480	1,765	1,712

2000年の国勢調査結果（出典：Veraguas y sus cifras 1996-2000, Direccion de Estadistica y Censo）

◇ 対象候補となる郡の学校数・教室数・教員数・児童数は次の通り

郡	小学校（6年間）				中学校（3年間）			
	学校数	教室数	教員数	児童数	学校数	教室数	教員数	生徒数
ベラグアス県	457	1,948	1,559	32,967	41	463	1,236	19,229
カニヤサス	61	174	153	3,338	2	20	35	624
ラス・パルマス	50	205	165	3,545	4	25	75	1,348
サン・フランシスコ	28	108	88	1,805	2	16	28	560
サンタ・フェ	34	132	118	2,653	2	10	21	310

ベラグアス県における郡別小学校および中学校（2000年暫定値）（出典：Veraguas y sus cifras 1996-2000, Direccion de Estadistica y Censo）

(ウ) 成果

1. 未就学・就学児童に対する学校給食が改善される
2. 学校給食における調理方法が改善される
3. 家庭の食事・水と衛生が改善される
4. 参加型計画・評価が導入され普及する
5. 郡レベルでのプログラム調整能力が向上する

(エ) 活動

- 1.1 農牧開発省普及員と NGO による対象コミュニティでの学校農園に対する研修（研修実施、教材使用、資材支援）を強化する
- 1.2 コミュニティ内組織の主導による学校農園に関する研修・ツアーを促進する
- 1.3 農牧開発省・教育省・保健省の県事務所の連携により、学校農園の教材の整備を行う
- 2.1 保健アシスタントと NGO による、母親を中心とした学校保護者会への、現地で入手可能な食材による調理方法研修（研修実施、教材使用、資材支援）を強化する
- 3.1 保健アシスタントと NGO による、母親を中心とした学校保護者会への、栄養・水と衛生などの保健に関する教育（研修実施、教材使用、資材支援）を強化する
- 3.2 保健省の県事務所により、栄養・水と衛生などの保健教育の教材の整備を行う

³⁰ 年齢別統計は0-4歳、5-9歳、10-14歳の区分でしか入手できない。ただし遅れて入学する児童や落第する児童が多く、初等教育6年に最大15歳から16歳の児童もいるため、この統計を使うのは妥当である。

- 4.1 農牧省普及員・保健アシスタント・NGO の連携により、参加型計画・実施・評価ができるように学校の保護者会を中心としたコミュニティの組織強化を行う
- 5.1 農牧開発省・教育省・保健省の県事務所の連携により、郡長へのプログラム調整支援を行う
- 5.2 郡の保健センターと農業普及所の連携を促進する

(オ) 投入

① 日本側投入

- 専門家派遣：長期「地域保健」1人×4年、長期「組織強化」1人×4年、長期「参加型計画」1人×4年、短期「保健教育」1人×2ヶ月×6回程度、短期「栄養」1人×2ヶ月×6回程度、短期「野菜」1人×2ヶ月×6回程度、短期「畜産」1人×2ヶ月×6回程度
- JOCV：「保健士または栄養士」対象郡の保健センター2～3ヶ所にそれぞれ1人×4年、「村落開発普及員または野菜または家畜飼育」対象郡の農業普及所2～3ヶ所にそれぞれ1人×4年
- 技術支援 NGO の備人費
- 本邦研修：地域保健サービスの質管理など2名×1ヶ月×4回程度
- 機材購入：学校農園資材（現地で入手できない金網、資料容器、給食用調理具など）、教材整備資材、車両（対象各郡に1台程度、保健センターに配置し管理責任は保健省県事務所とする）

② 相手側投入

- C/P
 - 保健省県事務所：ダイレクター（プロジェクトリーダー）、プロジェクトチームメンバー（教育課・栄養課・母子保健課・統計課などから3～4名）
 - 農牧開発省県事務所：プロジェクトチームメンバー（農村開発課から2名程度）
 - 教育省県事務所：プロジェクトチームメンバー（学校保健担当から1～2名程度）
 - 郡の保健センター：センター長（監督）、センター内プロジェクトチーム（環境衛生担当、教育担当、看護師など）
 - 郡の農業普及所：普及員
- アドバイザリー・コミッティーを保健省本省に設置
- 県事務所にプロジェクトオフィスの設置
- 供与車両、機材の運営管理費

(カ) 実施体制

- ① 保健省（昨年度の予算450百万ドル、職員総数14,000人）
- ② プロジェクト実施体制
総括責任者：保健省県事務所ダイレクター

プロジェクトチーム（県レベル）：JICA 長期・短期の専門家に加えて、保健省
県事務所（教育課、栄養課、母子保健課、統計課など）、教育省県事務所学校保
健課、農牧開発省県事務所農村開発課などからチームメンバーを構成

プロジェクトチーム（対象のそれぞれの郡）：JOCVに加えて、保健センタース
タッフ（センター長、環境衛生、教育、看護など）、農業普及所の普及員（4名
のうち1～2名程度）

コミュニティへの技術支援：保健アシスタント7～10名、NGO

(キ) 関連する援助活動

① 我が国の援助活動

- 「パナマ運河流域保全計画」プロジェクト (PROCCAPA)
- 「中山間地における持続的農村開発普及計画」プロジェクト (PROCESO)

② 他ドナー等の援助活動

- BIDが実施する「巡回診療プロジェクト」(PAISS)
- 世銀の融資により実施された「村落開発プロジェクト」(Pobreza Rural)
- NGO「PATRONATO」が実施する「コミュニティ農園プロジェクト」(Granja de Produccion)
- NGO「Nutre Hogar」が実施する「コミュニティ栄養センタープロジェクト」(Centros Comunitarios Nutricionales)

(ク) その他の情報

① 外部条件として、以下が挙げられる。

- ◇ 対象コミュニティへの道路が遮断されないことが挙げられる。³¹
- ◇ 2004年5月の政権交代後に、従来の貧困緩和政策が大きく変更されない。
- ◇ 保健省のベラグアス県事務所の技術スタッフが大きく変動しない。

② 協力期間

- ◇ 機関間調整や、コミュニティでの保健教育など、長期に行わないと成果が出にくい項目がある。したがって2005年から4年間実施することが提言される。

③ 類似案件からのフィードバック

- ◇ パナマにおける「パナマ運河流域保全計画」プロジェクト (PROCCAPA) および「中山間地における持続的農村開発普及計画」プロジェクト (PROCESO) からのフィードバックが重要となる。

④ 治安状況

- ◇ パナマ国ではコロンビア国境ダリエン地域およびサンプラス地域の一部を除き、問題なし。

³¹ ベラグアス県の村落は各コミュニティが小規模かつ広範囲に分散している。特に雨季などは交通が完全に遮断されることがある。そのため、村落を単位としてプロジェクトを実施する際には、活動実施の場所選定に留意する必要がある。

(ケ) 備考・留意点

- 生産者組織(既存の村落内組織含む)の強化過程において最も重要なことは、組織の活動が実感を伴う成功体験につながるようにすることである。例えば「新しく栽培した農作物が市場で買取られ、僅かではあったが現金収入があった」等の目に見える成功体験が蓄積されてゆくことが組織としての活動を軌道に乗せる重要な要件となる。
- 外部からの支援としては、このような成功体験につながる環境を整備することが重要である。その点からは農業生産者を対象としたプロジェクトにおいては、農業技術の普及などと並んで、農産物物流を支援する交通・輸送手段の供与もしくは貸与といった面での支援が望まれる。一般的にはこの点は農産物物流通として整理される領域ではあるが、結果的には生産者組織の強化支援のフレーム内にも合致するものである。
- ベラグアス県では生産者組織の強化を図りながら農業生産、環境保全などを目指しているプロジェクトは既に多く存在している。これらのプロジェクト内において実施されているリーダー会議、村落集会等の進行方法や会議の内容、テキストなどは既に完備していることから、新たなテキスト作りなどは行わず、むしろこれらのテキストを有効に利用することを提案したい。
- 村落内の既存組織である保護者会は組織力の観点から、プロジェクト実施における有力な対象組織と考えられるが、学校の休暇時期(12月クリスマスから3月中旬)には活動が実質的に休止している保護者会が多い点に留意する必要がある。また同時期は乾季＝農閑期であるため、村落を離れて出稼ぎに出る農民が居ることにも留意する必要がある。
- 学校農園かつ保護者会をベースとした栄養改善プロジェクトの実施を考慮した場合、技術指導の担い手が複数の省庁に亘るため省庁間の調整を図ることが重要である(保健省、教育省、農牧開発省)。
- 現在ベラグアス県では全学校数の約半数である200の学校において、学校農園が運営されているが、現状では学校によって農園管理の状況に差異が見られる。そのため学校農園を利用しながら栄養改善を図る本件プロジェクトでは、対象地によって異なるレベルから開始することが考えられる。
- ベラグアス県の村落は各コミュニティが小規模かつ広範囲に分散しているため、村落全体を対象とした活動が困難な場合がある。村落を単位としてプロジェクトを実施する際には、活動実施の場所選定に留意する必要がある(同村落内であってもセンター、サブセンターを設けて技術支援を行なうなどの工夫が見られる他プロジェクトも存在する)。
- 農業技術に関する技術マニュアル作成に関しては、既存のものを保護者会や教員あるいは小学児童をも対象として、図や写真などを盛り込み、平易に編集することを基本とする。また、PROCESOの成果として作成されるパンフレットや教材も活用することとする。

6. 2 その他の提言

(1) 小規模かんがい開発プロジェクト

(ア) 背景

現在、伝統的焼畑農業の代替生産方法として農牧開発省の各種プログラム、JICAの PROCESO、PATRONATO の持続的生産農園など多くの事業が導入を進めているのは、水田稲作、有機農業、養魚、小動物飼育、野菜作などの組み合わせである。とくに PATRONATO の「持続的農場」については、トップダウンでこれらをセットとして画一的に導入する傾向がみられる。他のプロジェクトにおいても、こうしたモデルが一般的な非伝統的農業と考えられているために、ボトムアップであってもこうした農法が導入されることが多いようである。しかしながら、農業は土地資源、水資源、人的資源に大きく依存するため、本来きめ細かい計画が求められ、そのためにオプションを増やす必要があるように思慮される。

ベラグアス県のとくに中山間部の農村の状況を視察したところによると、限られた水資源（溪流あるいは湧水）を一部の農民が独占して小さな水田に引き込み、しかも乾季には水田稲作に不十分であるケースも見受けられる。このような場合には、雨季の表流水をファームポンドに貯留し、乾季にその水をより有効に利用できる畑作を行うという代替案が提案される。また、早生や晩生品種を考慮した果樹の積極的な導入も有効と思われる。こうした代替案の例を整理すると、下表のようになる。

非伝統的農法の代替案の例

項目	伝統的農法	一般的な非伝統的農法	非伝統的農法の代替案
稲作	焼畑、陸稲、混作	小規模水田 (パイプライン)	焼畑、陸稲、混作
畑作	焼畑、混作	焼畑、混作	焼畑、混作
野菜	ほとんどなし	雨季の雨除け栽培	乾季の灌水栽培 (ファームポンド)
果樹	ほとんどなし	一部導入	接木など積極的に導入
施肥	無肥料あるいは化学肥料	有機肥料、化学肥料	有機肥料、化学肥料
家畜	ごくわずか	養鶏、養豚、小動物	養鶏、養豚、小動物
養魚	なし	水田で通年養魚	水田で雨季に養魚

この中でとくに慎重に検討すべき課題は、水資源の利用に関するものである。これまで導入を進めてきたパイプラインを用いた水田稲作と、代替案であるファームポンドを用いた野菜作について、適用の条件、経済性、有効性など比較検討することが必要であると考えられる。

(イ) 提言

農業普及モデルのかんがい分野について、現在実施中の PROCESO プロジェクトの中で、短期専門家による調査を実施することを提案する。短期専門家は「水利用」分野を担当し、「地域条件に適した低コストで効率的な水利用の方法を検討する」ことを主要な業務目標とする。最低3ヶ月間の調査期間が必要と考えられる。可能であれば、雨季と乾季の2回の派遣が望ましい。具体的な業務内容は、ベラグアス県内の Paso Real および Valdeses コミュニティーについては、おおよそ次のように提言される。

流量の豊富なサンタマリア川に沿った Paso Real コミュニティーでは、現在実施中のエンジン

ポンプと点滴かんがいというシステムの経済性を検討する。一方、Valdeses コミュニティーでは、溪流取水による水田耕作を試みているが、乾季の流量が乏しいために十分な作付けが困難な状況である。比較検討案として、雨季の溪流水を貯留するファームポンドなどを設けて（養魚を含む）、乾季にその貯留水を用いて野菜作や一般畑作を行うことが考えられる。ここでは、ファームポンドの適正規模や適正作付けパターンなどの技術的検討を行う。

短期専門家の調査結果と提言、あるいはプロジェクト全体の成果によっては、小規模かんがいに関する課題を取り上げて新たなプロジェクトとして協力することも、今後視野に入れるべきであろう。

(2) チャグレス国立公園内の農民への環境保全型生産方法支援

(ア) 背景

JICA が実施している「チャグレス国立公園内の農民への環境保全型生産方法支援」は、旧開発福祉支援事業として、技術協力プロジェクト「パナマ運河流域保全計画 (PROCCAPA)」の成果をパナマ運河東岸地域へ応用しようとするプロジェクトである。プロジェクト実施期間は 2003 年 4 月から 2005 年 3 月までの 2 年間、事業費は約 2000 万円であり、パナマの NGO である Fundación Natura が実施担当している。

事業は、アラフエラ湖 (Lago Alajuela) 東岸の 6 コミュニティーの 5 農民グループを対象に、各種研修事業、各グループの共同圃場における技術指導などを行っている。こうした事業の実施に、PROCCAPA プロジェクト地区に結成された農民組織連合である APRODECA が協力しており、互いの地区の視察や意見交換なども行われている。

当該地域は、以前から USAID などの流域保全プロジェクトが実施されており、農民は教育・訓練を受け、必要な資機材支援を得て、個人や組織のレベルが高いとみられる。また、PROCCAPA の事業地域の APRODECA の支援活動も積極的で、相互に高い成果が生まれることが期待される。

両プロジェクトの目的はパナマ運河への土砂流入を抑制する環境保全型農業の推進を図るという点で共通している。ただし、自然環境は大きく異なるために、技術的な工夫・配慮を怠ってはならない。中山間地である PROCCAPA 地域で有用な技術が、そのままアラフエラ湖畔のチャグレス地域でも最適技術であるとは限らない。例えば、溪流の水源からパイプで圃場へ導水する方法は、溪流水源が徒歩 2～3 時間と遠く湖が圃場近くにある環境では、足踏みポンプなどの代替案を検討すべきであろう。また、水田でテラピアの養殖をする技術については、チャグレス地域では湖を利用する工夫がなされるべきであろう。チャグレス地域では、湖で捕獲した魚とエビを天日乾燥して干物に加工する技術が開始されており、これは生産物の付加価値を高めると同時に市場への輸送を効率化できる有用技術であるとみられる。水産養殖と組み合わせて、今後大きく発展させることができる可能性がある。

(イ) 提言

現在のプロジェクト実施体制をみると、NGO にはプロジェクトの円滑な実施運営、APRODECA には自分たちの得た知識や技術の伝達が期待されているが、広い視野で技術的は判断と指導のできる人材が不足しているとみられる。参加型開発を基本方針においていることは理

解できるが、見識の限られた住民では判断が困難である技術的な内容については、外部有識者の提言が必要であると考えられる。

可能であれば PROCCAPA の JICA 専門家を現地に派遣し、やや詳細な現地調査を行い、農村開発における技術的提言をすべきであろう。それにより引き続き技術指導の必要性が認められる場合は、今後指導すべき技術内容の難易度により、協力隊や専門家の派遣を検討していくべきであろう。現在のところ、農業一般を専門とする長期専門家を 2 年間ほど派遣し、その活動費を用いて NGO などに現場作業を依頼し、湖畔地域に適応した技術の普及を進める方式が現実的であると想定される。

付属資料

現地調査訪問先

パナマ協同組合庁 (IPACOOOP) について

パナマ共和国貧困地域における持続的・経済開発プロジェクト形成調査
現地調査訪問先

【訪問者】の記載がない場合は、団員全員による。3月22日以降は大槻団員を除く。また JICA パナマ事務所の玉井貴子企画調査員及び Carlos Zambrano 現地職員が適宜、調査に同行した。調査後半では、ベラグアス県のローカル人材1名を調査補助員として活用した。）

技術協力プロジェクト「パナマ運河流域保全計画」(PROCCAPA) サイト

- 【日 時】 2004年03月10日(水)
【場 所】 El Cacao プロジェクト・サブセンター
【面談者】 高野 憲一 専門家(チーフアドバイザー/造林)
堀 暢昭 専門家(参加型開発/業務調整)
Luis Alberto Vega 造林カウンターパート
【概 要】 プロジェクト視察、進捗状況についての説明、パナマの村落開発についての意見交換、農民の感想等 聴取。

技術協力プロジェクト「中山間地における持続的総合農村開発計画」(PROCESO) サイト

- 【日 時】 2004年03月11日(木) 午前
【場 所】 Veraguas 県 La Mesa 区 Valdeces 村
【面談者】 高橋 貞雄 専門家(チーフアドバイザー/農業普及)
山岸 恭敬 専門家(農業研修企画運営)
梶房 大樹 専門家(参加型開発・業務調整)
【概 要】 プロジェクトのパイロット地区予定のコミュニティ訪問、貧困村落の現状視察。住民の生活状況、要望などについてワークショップにより聴取。

農牧開発省 (MIDA)

- 【日 時】 2004年03月11日(木) 午後
【場 所】 Santiago 市
【面談者】 Prof. Bruno Mojica 農牧開発局長
Lic. Ruben Quiroz 農牧開発局計画部長
Lic. Fernando Gomez 農牧加工局計画部長 他
【概 要】 農牧開発省の村落開発、農業普及等についての政策、事業等についての情報収集。

Pobreza Rural プロジェクト事務所

- 【日 時】 2004年03月11日(木) 午後
【場 所】 Santiago 市
【面談者】 Prof. Julio Casas アドミニストレーター

Lic.Luis Horacio Quezada 計画ユニット

Lic.Avis Riquelme コーディネーター

【概要】 Pobreza Rural プロジェクトの内容についての情報収集。

ベラグアス県内で実施中の PAISS プロジェクトの活動視察

【日時】 2004年03月12日(金)午前

【場所】 Veraguas 県内

【訪問者】 大槻、池田

【面談者】 Dr.Santiago Gonzalez 保健省ベラグアス県事務所長 他

【概要】 ベラグアス県内の保健センター及び PAISS プロジェクトの活動現場視察。また住民から意見を聴取し、村落の社会構造について情報収集。

保健省ベラグアス県事務所

【日時】 2004年03月12日(金)午後

【場所】 サンチアゴ市

【訪問者】 大槻、池田

【面談者】 Dr.Santiago Gonzalez 保健省ベラグアス県事務所長

【概要】 ベラグアス県内の保健医療の現状について情報収集。

協同組合庁 (IPACOOOP) ベラグアス県事務所事務所

【日時】 2004年03月12日(金)午前

【場所】 Santiago 市

【面談者】 Prof. Alfredo Rodriguez (所長)

Ing. Abigail Rodriguez Mojica (農業技師)

Ing. Abdelaziz Garcia Trejos (農業技師)

Ing. Dimas Raul Aparicio

【訪問者】 十津川、西谷、大滝

【概要】 協同組合庁の組織、活動内容、協同組合に対する支援内容などについて、聞き取り調査。次いで、組織の SWOT 分析を実施。

Juan XXIII (フアン・ペインティトレス) (IPACOOOP 傘下の大規模協同組合)

【日時】 2004年03月12日(金)午後

【場所】 Santiago 市

【面談者】 Leonel E. Patino G. (ジェネラルマネージャー)

Temistocles Franco (マーケティングマネージャー)

【訪問者】 十津川、西谷、大滝

【概要】 全国的にも有名な大規模協同組合である Juan XXIII の経緯、組織、活動について、聞き取り調査を行った。

Juan XXIII 家畜飼料工場

【日 時】 2004年03月13日(土) 午前

【場 所】 Santiago 市

【面談者】 Florentino Calderon Juan XXIII 理事 他

【訪問者】 大槻、十津川、西谷、大滝

【概 要】 Juan XXIII が経営する家畜飼料工場を視察、販売体制、組合員への提供等を調査

国立農業学校 (INA)

【日 時】 2004年03月13日(土) 午後

【場 所】 Santiago 市

【面談者】 高橋 貞雄 専門家(チーフアドバイザー/農業普及)

山岸 恭敬 専門家(農業研修企画運営)

梶房 大樹 専門家(参加型開発・業務調整)

【訪問者】 大槻、十津川、西谷、大滝、JICA チリ事務所・山口職員

【概 要】 高橋専門家がこれまで技術指導を行い、今後 PROCESO における技術普及の中心となる国立農業学校を視察。プロジェクトの内容について説明を受ける。

ベラグアス県内で実施中の PAISS プロジェクトの活動視察

【日 時】 2004年03月13日(金)

【場 所】 Veraguas 県 他

【訪問者】 池田

【面談者】 Dr.Domitillo Catillo ラス・カニャーサス農村病院長 他

【概 要】 ベラグアス県内で実施中の PAISS の活動現場視察。特に先住民族自治区での活動状況を視察。

JICA パナマ事務所

【日 時】 2004年03月15日(月) 午前

【場 所】 Panama 市

【面談者】 甲斐 直樹 (所長)

遠藤 浩昭 (次長)

松本 マツノ (ボランティア調整員)

犬竹 史蔵 (ボランティア調整員)

Lic.Carlos Zambrano (現地職員)

Lic.Ezequiel De La Espriella (現地職員)

【概 要】 調査の実施方向性等について打合せ

在パナマ日本国大使館

【日 時】 2004年03月15日(月) 午前

【場 所】 Panama 市

- 【面談者】 下荒地 修二 (大使)
吉田 豊成 (二等書記官)
- 【概要】 表敬及び今回の調査団の目的等説明

共同組合庁 (IPACOO)

- 【日時】 2004年03月15日(月)午後
- 【場所】 Panama市
- 【面談者】 Humberto Osorio (技術協力局長)
Antonio De León (研修局長) 他
- 【概要】 事業概要、協力要望分野等についての情報収集

保健省

- 【日時】 2004年03月16日(火)午前
- 【場所】 Panama市
- 【面談者】 Lic.Felipe Castillo (国際局海外協力長)
Lic.Carlos Niño (プロジェクトコーディネーター)
Aan Batisa (予算コーディネーター)
Vielka Quijada (水技術コーディネーター)
- 【概要】 表敬及び村落部における保健状況についての情報収集。

経済財務省

- 【日時】 2004年03月16日(火)午後
- 【場所】 Panama市
- 【面談者】 Lic.Nuvia De Jarpa (社会政策局長)
Lic.Maria Cristina De Pastor (社会政策局副局長)
Lic.Rogelio Noli (CTI コーディネーター)
Lic.Rosa.Elena De Delacuy (UNDP コンサルタント)
Lic.Eira Nidia Rosas (経済協力担当)
- 【概要】 表敬及びパナマの貧困問題、取組状況についての情報収集。

UNDP 事務所

- 【日時】 2004年03月16日(火)午後
- 【場所】 Panama市
- 【面談者】 Roberto Gálvez (次長)
Isabel St-Malo de Alvarado (所員)
- 【概要】 表敬及びパナマでの協力状況について意見交換。

WHO (PAHO)事務所

- 【日時】 2004年03月16日(火)午後

- 【場 所】 Panama 市
【訪問者】 大槻、池田
【面談者】 Dra.Guadalupe Verdejo (所長)
 Dr.Guillermo Troya (顧問)
【概 要】 表敬及びパナマでの協力状況について意見交換。

環境庁ベラグアス県事務所

- 【日 時】 3月22日(月) 午前
【場 所】 Santiago 市
【面談者】 Julia Falcon Guevara (アドミニストレーター)
 Lic. Roland Ruiloba (自然遺産部部長)
【訪問者】 西谷、十津川、大滝
【概 要】 環境庁県事務所の概要、実施プロジェクト、マングローブの保全、スペイン協力庁のプロジェクトなどについて、聞き取り調査。

農牧開発省ベラグアス県事務所

- 【日 時】 3月22日(月) 午後
【場 所】 Santiago 市
【面談者】 Caludio Guizalo (ベラグアス県地域事務所長)
 Benigno Mela (ベラグアス県農村開発部部長)
【訪問者】 西谷、十津川、大滝
【概 要】 農牧開発省ベラグアス県事務所の所長と農村開発部長より、県内の農村開発一般、組織、農業普及の実態、農民組織の育成策などに関する聞き取り調査。

エスペランサ協同組合

- 【日 時】 3月24日(水) 午後
【場 所】 Santa Fe 市
【面談者】 直接組合役員にインタビュー
【訪問者】 西谷、十津川、大滝
【概 要】 サンタフェにあるコーヒーの生産加工を主体とする協同組合において、経緯、組織、活動内容、問題点などについて、聞き取り調査。

サンタフェ農業普及所

- 【日 時】 3月29日(月) 午前
【場 所】 Santa Fe 市
【面談者】 Benigno Mela (農牧開発省ベラグアス県農村開発部部長)
【訪問者】 西谷、十津川、大滝
【概 要】 サンタフェにある農牧開発省の普及所において、事務所の概要について聞き取り調査。
El Alto 地区にある学校農園、および PATRONATO 持続的農園の視察。

農牧開発省全国灌漑局

【日 時】 3月29日(月) 午後

【場 所】 Santiago市

【面談者】 Omar A Garcia R. (全国灌漑局灌漑専門家)

Sebastian Pinzon (全国灌漑局農業専門家)

【訪問者】 西谷、大滝

【概 要】 全国かんがい局の業務内容、パナマ国のかんがい事情、国家かんがい計画などについて情報収集。小規模かんがいに関する意見交換。

協同組合 (2ヶ所訪問)

【日 時】 3月30日(火) 終日

【場 所】 Cañazas郡 Cerro Plata地区、Santiago郡 El Pedernal地区

【面談者】 直接組合役員にインタビュー

【訪問者】 西谷、十津川、大滝、レイエス調査補助員

【概 要】 協同組合庁 (IPACOOOP) に登録している農業生産関連組合2組織を訪問し、聞き取り調査。Cerro Plata地区の農業生産者組合と El Pedernal地区のサトウキビ生産組合。

学校農園 (3ヶ所訪問)

【日 時】 3月31日(水) 終日

【場 所】 La Mesa郡 La Mesa地区、La Mesa郡 San Bartolo地区、
Canazas郡 La Concepcion地区

【面談者】 Pablo Duarte (教育省(ベラグアス県)栄養部)

【訪問者】 西谷、十津川、大滝

【概 要】 教育省県事務所栄養部の案内により、優良学校農園の視察。La Mesa地区の都市部の大規模小学校、San Bartolo地区の幹線道路沿いの中規模小学校、La Concepcion地区の中山間地の中規模小学校の計3校の現地視察と聞き取り調査を実施。

農牧研究所 (IDIAP)

【日 時】 4月1日(木) 午前

【場 所】 Herrera県 Divisa市

【面談者】 Pedro V. Him Him (シニア研究員)

Ing. Araiz Cajar Sierra (シニア研究員)

【訪問者】 西谷、十津川、大滝

【概 要】 農牧研究所 (IDIAP) の組織、活動内容など、概要について聞き取り調査。研究所内の土壌分析施設の視察。所長に対して表敬。

スペイン協力庁

【日 時】 4月5日(月) 午後

【場 所】 Panama 市

【面談者】 Paloma Morazo (プログラムオフィサー)
Jesus Molina Vazquez (ジェネラル・コーディネーター)
Adoracion Leon (持続的農業プログラム専門家)

【訪問者】 池田、西谷、十津川、大滝

【概 要】 スペイン協力庁の実施している農業開発、保健衛生、市役所強化に関するプログラム・プロジェクトの概要について聞き取り調査。

教育省全国栄養保健局

【日 時】 4月6日(火) 午後

【場 所】 Panama 市

【面談者】 Ricardo A. Marrone V. (学校栄養全国局副局長)
Ing. Edwin Raul Medina (学校栄養全国局)

【訪問者】 池田、西谷、十津川、大滝

【概 要】 教育省の実施する学校農園プログラムに関して、その経緯、内容、運営組織などについて聞き取り調査。

教育省全国コミュニティ教育/保護者会局

【日 時】 4月7日(水) 午前

【場 所】 Panama 市

【面談者】 Luis Alberto Lopez (コミュニティ教育/保護者会全国局局長)

【訪問者】 西谷、十津川、大滝

【概 要】 教育省が監督する保護者会に関して、その概要、強化育成策、学校農園に対する関与などについて、聞き取り調査。

パナマ協同組合庁 (Instituto Panameno Autonomo Cooperativo : IPACOOOP)について

1. IPACOOOP 概要

1) IPACOOOP 組織概要

パナマ協同組合庁 (Instituto Panameno Autonomo Cooperativo : 以下 IPACOOOP)は、生産者組織の生産活動および経営全般において多面的な支援を行なう目的で1980年に設立された組織である (法律第24号)。IPACOOOPの職員数は254名 (2002年)、パナマ市の中央に加えて地方事務所が計9箇所所在。IPACOOOPの組織図は以下のとおり (図1参照)。またIPACOOOPの年間予算は2003年時で約326万ドルを計上しているが、これは2001年のピーク時に比して約25%の減額である。

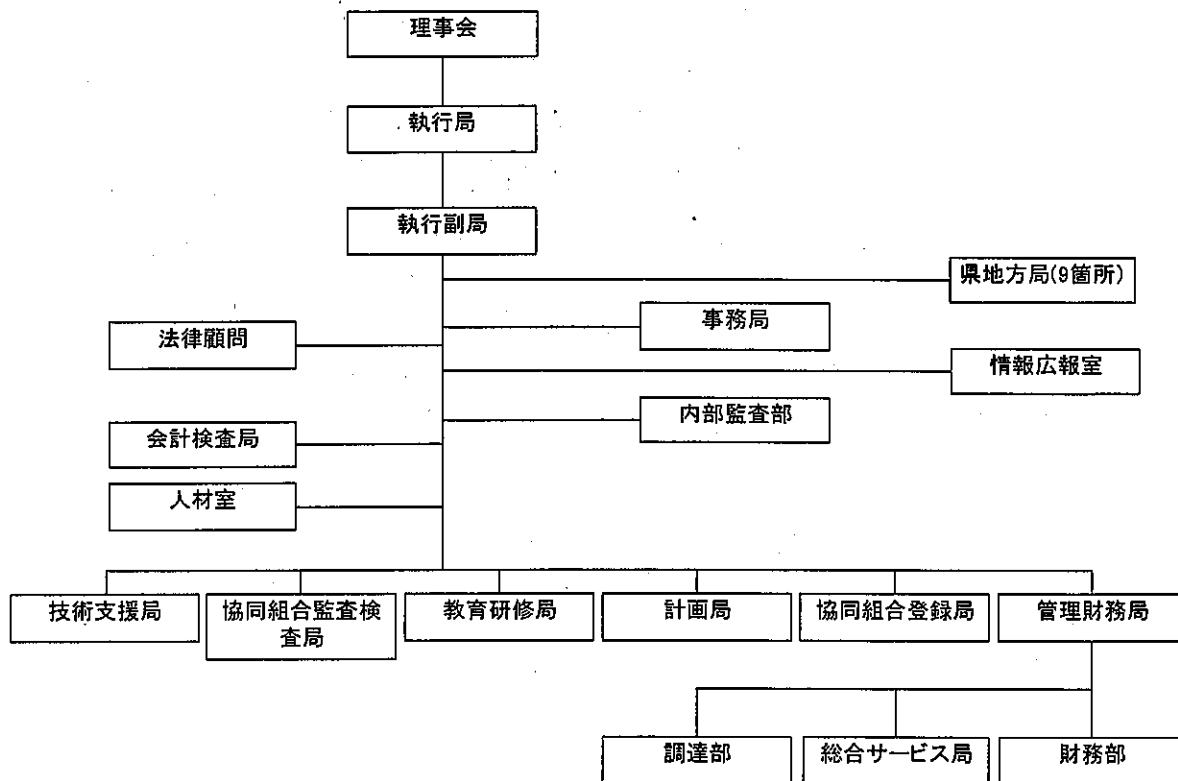


図1 IPACOOOP 組織図

2) IPACOOOP 活動内容

生産者組織の活動全般を支援する目的をもった IPACOOOP は、特に以下の分野における活動に注力している。

- a) 協同組合員に対する現場での技術支援、および研修・トレーニング活動
 - 農牧技術指導

- 財務・会計
 - プロジェクト計画・活動計画作成
 - 組織運営
- b) 協同組合監査
- c) 協同組合登録・管理

a)における技術支援、研修活動に携わるスタッフ数は下表のとおりである。協同組合員を対象とした実地の活動は各県の技術スタッフに委ねられている。しかしながら、農牧業分野をはじめ技術スタッフは人数が1人から最大4人と極めて少人数であり、協同組合への技術指導もおおのずと限定されざるを得ない状況となっている。

表1 IPACOOP 技術支援部門における職員数

	農牧業	財務・会計	活動計画作成	市場情報	組織運営
中央 (コーディネーター)	1	1	1	1	1
ボカス・デ・トロ	1	1	0	0	1
コクレ	2	0	1	0	0
コロソ	1	1	1	0	1
チリキ	4	3	1	1	4
ダリエン	1	1	0	0	1
ヘレラ	1	1	1	0	2
ロス・サントス	1	3	1	0	2
パナマ	1	3	2	1	6
ベラグアス	4	2	1	0	2
合計	17	16	9	3	20

上記の活動に関して他省庁との連携については、特に農牧省から技術支援についての人的支援を受けることが理想ではあるが、実際には農牧省との交流は少ないものと推察される。

下表に IPACOOP のヴェラグアス県事務所に於ける過去5年間の研修内容を記載する。

表2. ヴェラグアス県 IPACOOP 研修実績 (1999年—2003年累計)

研修分野	研修コース名	実施回数 (99-03年)	実施日数 (延べ)	参加者数 (延べ)
協同組合設立手続き・法関連	議会規則	1	1	75
	協同組合法、議会規則	1	2	45
	協同組合登録	1	2	35
	法規制と登録義務	1	2	25
	協同組合法	1	1	50
	協同組合の基礎	3	9	172
	協同組合の更新	2	3	192
	理事会の機能と権限	1	1	28
	協同組合の統合	1	1	40
会計・財務関連	簿記と会計原則	3	11	53
	財務諸表	2	6	61
	意思決定における財務報告の重要性	1	3	39
	マネーロンダリング防止法	3	3	78
経営管理関連	企業経営	3	12	58
	協同組合経営	1	4	19
	プロジェクト形成方法	2	8	37
	協同組合	1	1	230
	監視委員会の機能と権限	3	12	55
	事務管理	1	4	17
	企業経営	1	1	75
	企業育成	1	1	127
リーダー研修関連	リーダー研修	2	4	48
	管理職養成	3	3	192
	役員向け管理手法	3	3	108
ジェンダー、学校、青年等対象関連	ジェンダーにおける平等	6	6	320
	学校協力組合	1	1	104
	青年協同組合	3	7	495
	社会組織	1	1	5
	教育委員会の機能と権限	2	3	43

出所：IPACOOB 内部資料

2. IPACOOB の貧困削減に対する取り組み

IPACOOOP もパナマ国内、特に地方部の貧困問題は重要課題と認識しているが、現実には IPACOOOP のサービス提供対象者は協同組合に限定されている。これは協同組合を形成するだけの組織力、人的・物的経営資源の蓄積に成功した人々・組織だけが IPACOOOP のサービスを受受できるシステムとなっており、これらのレベル以下に位置する貧困層は IPACOOOP との接触は基本的にはありえない。

この点からも、地方における貧困層への直接的な支援を考慮するに当たっては、IPACOOOP は貧困層よりもやや恵まれた環境に居る人々が対象となっている。

IPACOOOP ヴェラグアス県事務所において、簡易の SWOT 分析を実施した結果が以下である（下記では自己の認識する「強み」「弱み」の部分を抜粋のうえ記載）。

表 IPACOOOP における SWOT 分析（ヴェラグアス県事務所）

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> • 融資システムがある • 車がある(7台) • IPACOOOP-組合員の繋がりが強い。信頼関係。 • 技術者の強い責任感 • 協同組合に対して報告書を作成 • 中央から活動評価に来る（ため、より高い活動成果につながる） • 出張手当が出る 	<ul style="list-style-type: none"> • 予算の変動が大きい • 雇用が保証されていない • 技術者が足りない • 研修センターが無い • (組合に対して)物的支援をする予算が無い（→効果的な技術支援が出来ない） • コンピュータ、農業機械等足りない • 技術者自身への研修が足りない

3. IPACOOOP と生産者組織の関係

IPACOOOP のサービス提供対象者は 1) 協同組合として登録された組織、2) 現在協同組合の登録を申請している、もしくは 3) 申請を予定している組織に限定されており、組織構成員以外の人々に対する支援は現在行っていない。

協同組合は年度ごとの収益金の 5%を IPACOOOP に支払う義務がある。

4. IPACOOOP への他ドナーによる支援

IPACOOOP に対する他ドナーからの支援としては、2003 年 8 月から米州開発銀行による IPACOOOP 近代化プロジェクトが挙げられる。支援項目は 1)協同組合登録システム、2)会計システム、3)コンピュータ利用に関する技術支援（総額 30 万ドル：2 年間）である。

またこれまでメキシコ（TQC：Total Quality Control プロジェクトへの専門家派遣、放牧管理専門家派遣）、カナダ（調査データ処理方法の改善）、台湾（漁業組合支援）、コロンビ

ア（コーヒー生産）、アルゼンチン等からの技術支援を受けている。

日本からは IPACOOIP および IPACOOIP 認可の協同組合に対してシニアボランティア、青年協力隊の派遣を継続的に実施してきた。

